

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月 18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4671200253
法人名	(有)協愛介護サービス
事業所名	グループホーム協愛
所在地	鹿児島県霧島市国分新町一丁目6番52-17号 (電話) 0995-48-8600
自己評価作成日	平成26年9月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	Http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体病院や居宅介護事業所に隣接されており、日頃より病院との連携が取れており、体調変化時の対応も迅速に出来、本人様はもとよりご家族様も安心出来る環境構築に努めている。また、地域の行事に参加したりボランティアの方々の来所も定期的であり、施設内の行事にもご家族や地域の方も参加されます。スタッフは全員いつも笑顔で、挨拶は自らする様に心がけて、利用者様との会話も大切にするようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<立地・環境、地域との関係>

- ・市街地から少し入った住宅地の中にある事業所は、母体医療機関や居宅介護支援事業所等が隣接しているため、医療と介護が充実しており、利用者や地域住民らが安心して暮らせる環境が整っている。
- ・地域との関係も良好で、事業所の実情について近隣に伝え理解を図るとともに敬老会等の地域行事に参加したり、事業所主催の夏祭りやソーメン流しへの参加を地域住民に呼び掛けるなど、共に交流できるよう取り組んでいる。

<理念の実現に向けた取り組みについて>

- ・「慣れ親しんだ地域の中で、安心して思いの叶う、明るいグループホームに！」を理念に掲げ、常に理念を意識して毎日のケアに活かせるよう毎朝朝礼時に唱和し職員間で確認し合っている。
- ・理念にある、慣れ親しんだ地域の中での暮らしの実現に向け、利用者の思いや意向をきちんと把握した上で利用者本位の生活が送れるよう、日々、寄り添いながら支援している。

<重度化、終末期への支援について>

- ・現在、重度化や看取りに対応できる事業所を目指して、外部研修に参加したり、勉強会を実施するなど積極的に終末期の支援に向けたレベル向上を図るとともに、本人や家族、職員や医師らが連携し合い、住み慣れた地域で最期まで過ごせる環境を整えているところである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝朝礼時に唱和し、共有している。そして、地域のボランティア受け入れや、地区の催し物に参加などして実践につなげている。	地域の中で安心して過ごせるよう地域の方々との交流を大切に考えており、買い物に地元の商店街に出かけるなど地域密着型サービスの意義を重視した理念を掲げ、実践している。また、年1回系列の各事業所が集まり、理念が現状に即しているか話し合い、理念の共有・実現に向け話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の催し物に参加したり、地区へ事業所便りを配布したり、日常的に交流する機会を設けている。	年間行事計画に地域行事を組みこみ参加したり、事業所主催の夏祭りやソーマン流し等の行事にお誘いするなど地域との交流を大切に考え取り組んでいる。また、中学生や高校生によるボランティアや職場体験の受け入れも積極的に行なっている。日常的に出かける散歩や買い物では、地域の方とふれあうよい機会となっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域運営推進会議などで、認知症ケアに関する勉強会を開催したり、福祉祭りに参加したり地域への発信を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、勉強会を開催し、施設で活かせる意見を参加者様より頂き、サービス向上に努めている。	会議ではメンバーから積極的に意見が出されており、夜間の避難場所について外灯が必要という意見が出たことに対し、すぐに外灯を設置するなど対応している。また、会議では事業所のことをもっとよく知ってもらうために認知症等関連する内容の勉強会を組み込むなど理解につなげる努力を続けサービスに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域運営推進会議には、毎回参加してもらい、事業所の状況報告を行っている。また、運営上、不明な点は電話にて随時確認を取り連携を図っている。	運営推進会議や認定更新時、また事業所のウッドデッキの改修についての相談など随時行政と話をする機会をつくっている。また、逆に行政から医療対象者や生活支援者の受け入れの相談や行政主催の福祉祭りへの参加の呼びかけ、認知症サポーター研修への参加の要請を受けるなど積極的に交流を図り連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に数回、勉強会を開催しており、スタッフルームにも身体拘束に関する資料を設置している。	『身体拘束防止対策委員会』を設置し、毎月1回母体医療機関と合同で話し合いを行うとともに職員会議等で年に数回勉強会を開催している。言葉による拘束を確認した時は申し送り時や職員会議等で現状を把握した上で再発防止に向けた話し合いを行い対応している。玄関は常時解錠しており、利用者の言動や状態についてしっかり把握するとともに見守りを徹底させることにより自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に数回、勉強会を開催している。また、言葉の虐待などがないう、日頃から職員間で確認しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	特別、学ぶ機会は設けておらず、パンフレット等をスタッフルームに置いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前に、ご家族・利用者様から契約時の不安や疑問を伺い、入所後も改定等の際は、説明する機会を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情・相談窓口を設けており、玄関にパンフレットや御意見箱が置いてある。重要事項説明書の中にも連絡先を明記し、ご説明している。	毎年12月に開催する家族交流会では、事前にアンケートを配り意見を出しやすくする工夫をしている。また、職員がつくるお便りを家族に送付することで、家族と共有する話題もでき、意見や要望を聞き出すきっかけ作りになっている。家族から行事に関する意見をもらい、足湯に出かけ利用者らにとっても喜ばれたこともある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、職員会議を開催し、職員の意見や提案を、必要に応じて運営者にも報告している。	管理者は日頃から職員の意見をこまめに聞くなど思いを汲み取る努力をしており、内容によっては職員会議に上げ職員全員で課題について話し合い検討し合うようにしている。勤務体制についても、なるべく職員の希望する日に休みをとれるよう配慮したり、資格取得に向けた情報収集等にも積極的に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は運営者に、職員の業務に対する努力や実績などを書類などで報告している。処遇改善交付金も年に3回、給付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入所後3ヶ月は、業務チェックリストに記入をしてもらい、指導係が確認をしている。その後も、力量に応じて外部研修に参加する機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会主催の研修会に参加している。外部研修にも参加し同業者との交流する機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時、密にコミュニケーションをとり、不安などを、お聴きできる環境を構築している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時の重要事項説明をする際も、ご家族の要望・不安をお聴きしている。また、話をしやすい環境を意識して作っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>課題分析を行い、必要に応じては主治医の指示をもらい、リハビリや物理療法を受けていただいている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食後の食器拭きや、洗濯物たたみ、調理などを一緒に行い、共に過ごす関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者ごとに、毎月お便りで状況報告を行い、行事のお誘いも行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をもらい、可能な限り外出やお墓参りの機会を設けている。また、スタッフ支援で馴染みの美容室への外出支援も行っている。	フェイスシートに家族歴や社会生活歴を記載し職員全員で情報を共有し合うとともに電話や手紙の取り次ぎ、外出など友人や知人らとの関係継続に向け日々支援している。馴染みの床屋や商店には職員が外出を支援しているが、お墓参りなどには家族に支援してもらうなど協力し合いながら馴染みの関係を大切に関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、リビングでの過ごし方などから、利用者同士の関係を把握し、関わりあえる関係調整に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される際は、病院入院、法人内他事業所入所が殆どなので、時々面会に出向いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話を大切にし、意向の把握に努めている。意向の訴えが困難な場合は、担当者会議などでスタッフの意見を集約し、本人本位に検討している。	日頃より寄り添うケアに努めており、日常の中で見せる表情や会話の中から思いを把握し、職員会議で専用シートを用いて利用者の状態や支援方法等についてをグループワークで検討している。また、毎週火曜日に医師や看護師を含めてケアカンファレンスを行なうなど情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族から、これまでの暮らし方をお聴きし、スタッフ間で情報共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の朝礼時に情報共有を行い、担当者会議、職員会議、日々の経過記録で、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、モニタリングを行っている。毎週火曜日に母体病院ドクター、看護師来所、カンファレンスを行っている。	本人の思いや希望を日常の言動の中から汲み取るとともに思いをうまく伝えられない場合は家族の意見を参考にしながら利用者主体のケアプラン作成を行なっている。また、医師や看護師を含めたケアカンファレンスにおいて現状を確認し、定期的にモニタリングを実施することで現状に即したケアプランを作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過記録を記入。それ以外では、ケア日誌、申し送りノート、杓付ボードを活用して情報共有と改善に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族には面会時に、状況報告と共にニーズを伺い、本人には施設での生活上で聴き取りを行い、柔軟な支援が出来る様、職員会議で話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、老人クラブ、踊りボランティアの方々との交流がある。近くの商店も買い物で利用し楽しみづくりとしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は母体病院を受診し、他科受診する際は、家族に相談し同伴出来る際は依頼し、出来ない場合はスタッフが付き添い、経過報告を行っている。	定期的に隣接する医療機関に職員が同行しているが、歯科や眼科等の他科受診については、なるべく家族の協力をもらいながら受診を支援している。状態に変化がある場合は『状態報告用紙』にバイタルや状態を記入し受診時に病院に提出している。受診の結果は職員間で申し送り、家族にも必ず電話で結果を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時は、母体病院看護師に報告・相談を行っている。毎週火曜日は、母体病院ドクター、看護師が来所、担当者会議を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、相互で情報提供書を作成、共有している。入院時は、面会に行き、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の重要事項説明時に事業所の方針を伝えている。また状態に応じ、主治医からの説明もお願いしており、母体病院との連携に努めている。	契約時に看取りに関する説明を行ない、身体状況を判断した上で医師や家族を含めた話し合いにより、看取り介護の支援を決定している。これまでに看取りの実践はないが、今後、重度化や看取りに対応すべく『看取り介護に関する説明書』や『看取り介護実施計画書』等の書式を整備するとともに看取りに関する知識向上を目指し、外部研修に参加したり、勉強会を行なうなど終末期ケアの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、職員が常に見れる場所に設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練では、消防署監督のもと、実施している。勉強会も年に1回、行っている。</p>	<p>消防署や運営推進委員会のメンバー、隣接する医療機関も参加して年2回夜間想定を含む災害訓練を実施している。その他、年1回避難経路の確認や消火器の使い方の訓練を行ったり、防火管理者の資格取得に参加するなど万が一に備え、日々取り組んでいる。食料等の備蓄については、母体医療機関で一括して管理している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格、個性に配慮した言葉かけや対応を意識している。職員会議でも、人格の尊重について話し合う機会がある。	接遇に関する研修会を年1回実施しており、日々接する中で気付いた利用者の思いに寄り添い、言葉遣いに配慮しながら本人本位の生活が送れるよう支援している。また、さり気なくトイレ誘導したり、汚染した衣類を他者にはわからないよう運ぶなど配慮しており、入浴に関しても希望があれば同性介助で対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る利用者は少ないが、生活の中で表情や言葉などから本人の想いを汲み取り自己決定につなげるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴は、ある程度の時間が決まっているが、その中でも本人のペースを尊重するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみの自己決定が出来る方は、衣類を選んでいただいている。出来ない方は、家族に話を聴いたり等して、職員が本人らしいのを考え選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き等は、出来る方が多くスタッフと一緒にいる。調理は、切る、剥くなど出来る方も居るので一緒に行っている。	献立は母体医療機関の管理栄養士が立てているが、菜園で採れた野菜や頂き物がある時には随時献立を変更してメニューに加えている。年に数回外出に出かけているが、個別の要望にも応えており、その都度職員と外出に出かけたり、買い物に出かけるなどしている。普段は利用者と職員が同じものを会話を楽しみながら一緒に食べている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回の体重測定、毎日の食事・水分量記録にて、個別の状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア介助及び、声かけを全利用者に行っている。状態に応じて、かかりつけ歯科医の往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に確認出来る排泄チェック表を設け、排泄パターンの把握に努め、個人に合わせたトイレ誘導、声かけを行っている。	排泄のほか、食事や水分摂取量、バイタルが一目でわかるよう一枚のシートに記録している。なるべく布パンツに近づけられるようパットやリハビリパンツを外す工夫をしており、また、ポータブルトイレは、夜間のみ使用することで対応するとともにこれらの一連の工夫をケアプランに記載することで、職員全員で取り組む課題として排泄の自立支援を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食物を提供したり、個々の水分出納状況を把握し、必要に応じて足りない部分は働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴曜日は、決まっているが本人のタイミングに合わせて時間帯、曜日を変えて対応している。	入浴日を決めているが、利用者の希望があればいつでも入浴でき、入浴剤やゆず湯につかるなど楽しく入浴できるよう工夫している。入浴拒否のある方には、タイミングを見計らって入浴に誘っており、入浴したくない理由についても職員間で話し合うなど、情報の共有と支援方法を話し合っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた入眠時間・環境などを心がけている。日中も居室で休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理表を作成し、職員がいつでも見れる場所に設置している。症状の変化時は母体病院に報告・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族・本人の話をもとに、役割を持っている。確認が困難な方は、職員で話し合い、検討をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年に数回の外出行事と、個別で希望に応じて散歩、外食、散髪など出かける機会を設けている。	初詣や花見など季節の行事に出かけるとともに外食等も楽しめるよう定期的に外出の機会を設けている。また、個別に外食を希望された場合にも可能な限り職員が同行できるよう調整し対応している。歩行が困難な方には、同系列事業所から車椅子対応車を借りて出かけるなど、利用者一人ひとりに配慮した外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者に対しては、お金を所持していただき、それ以外の方は施設でお預かりしている。いつでも、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が電話を希望される際は、その都度、対応している。手紙を書かれた際は、投函するなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた、飾り物や作品を利用者と一緒に作成し共用の空間に掲示している。冷暖房、採光など快適に過ごせるよう配慮をしている。	換気を含めた空調や採光の十分とれたリビングでは、利用者らが集い語り合う場となっており、季節毎に掲示する作品も季節感や温かみを感じられ来訪者の目を楽しませるものとなっている。浴室やトイレについても、使いやすさの広さを確保しており、適度な介助スペースも確保され、大変利用しやすい造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で会話が生まれやすい座席配置や、独りで過ごしやすい空間を作り居場所の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅で使っていた愛用品を持ってきていただくよう、お願いをし、本人らしい部屋作りに努めている。	契約時に自宅にいるような居心地のよい環境で過ごしてもらいたい旨を説明し、これまで使っていた馴染みの品を持参してもらおうようにしている。また、快適に自室で過ごしてもらうために毎日職員が丁寧に掃除するなど、日常的に居住環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や風呂場には、手すりを設置し、個別にベッドサイドにも手すりを設置している。また、安全と自立に考慮した家具の配置に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝朝礼時に唱和し、共有している。そして、地域のボランティア受け入れや、地区の催し物に参加などして実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の催し物に参加したり、地区へ事業所便りを配布したり、日常的に交流する機会を設けている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域運営推進会議などで、認知症ケアに関する勉強会を開催したり、福祉祭りに参加したり地域への発信を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、勉強会を開催し、施設で活かせる意見を参加者様より頂き、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>地域運営推進会議には、毎回参加してもらい、事業所の状況報告を行っている。また、運営上、不明な点は電話にて随時確認を取り連携を図っている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年に数回、勉強会を開催しており、スタッフルームにも身体拘束に関する資料を設置している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年に数回、勉強会を開催している。また、言葉の虐待などがないうよう、日頃から職員間で確認しあっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>特別、学ぶ機会は設けておらず、パンフレット等をスタッフルームに置いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所前に、ご家族・利用者様から契約時の不安や疑問を伺い、入所後も改定等の際は、説明する機会を設けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情・相談窓口を設けており、玄関にパンフレットや御意見箱が置いてある。重要事項説明書の中にも連絡先を明記し、ご説明している。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一回、職員会議を開催し、職員の意見や提案を、必要に応じて運営者にも報告している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者は運営者に、職員の業務に対する努力や実績などを書類などで報告している。処遇改善交付金も年に3回、給付している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入所後3ヶ月は、業務チェックリストに記入をしてもらい、指導係が確認をしている。その後も、力量に応じて外部研修に参加する機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会主催の研修会に参加している。外部研修にも参加し同業者との交流する機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、密にコミュニケーションをとり、不安などを、お聴きできる環境を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の重要事項説明をする際も、ご家族の要望・不安をお聴きしている。また、話をしやすい環境を意識して作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題分析を行い、必要に応じては主治医の指示をもらい、リハビリや物理療法を受けていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の食器拭きや、洗濯物たたみ、調理などを一緒に行い、共に過ごす関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者ごとに、毎月お便りで状況報告を行い、行事のお誘いも行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の協力をもらい、可能な限り外出やお墓参りの機会を設けている。また、スタッフ支援で馴染みの美容室への外出支援も行っている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーション、リビングでの過ごし方などから、利用者同士の関係を把握し、関わりあえる関係調整に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所される際は、病院入院、法人内他事業所入所が殆どなので、時々面会に出向いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>普段の会話を大切にし、意向の把握に努めている。意向の訴えが困難な場合は、担当者会議などでスタッフの意見を集約し、本人本位に検討している。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時、利用者本人や家族から、これまでの暮らし方をお聴きし、スタッフ間で情報共有する。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎朝の朝礼時に情報共有を行い、担当者会議、職員会議、日々の経過記録で、現状の把握に努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行っている。毎週火曜日に母体病院ドクター、看護師来所、カンファレンスを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過記録を記入。それ以外では、ケア日誌、申し送りノート、ホワイトボードを活用して情報共有と改善に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族には面会時に、状況報告と共にニーズを伺い、本人には施設での生活上で聴き取りを行い、柔軟な支援が出来る様、職員会議で話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、老人クラブ、踊りボランティアの方々との交流がある。近くの商店も買い物で利用し楽しみづくりとしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は母体病院を受診し、他科受診する際は、家族に相談し同伴出来る際は依頼し、出来ない場合はスタッフが付き添い、経過報告を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時は、母体病院看護師に報告・相談を行っている。毎週火曜日は、母体病院ドクター、看護師が来所、担当者会議を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院の際は、相互で情報提供書を作成、共有している。入院時は、面会に行き、情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時の重要事項説明時に事業所の方針を伝えている。また状態に応じ、主治医からの説明もお願いしており、母体病院との連携に努めている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成し、職員が常に見れる場所に設置している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練では、消防署監督のもと、実施している。勉強会も年に1回、行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格、個性に配慮した言葉かけや対応を意識している。職員会議でも、人格の尊重について話し合う機会がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る利用者は少ないが、生活の中で表情や言葉などから本人の想いを汲み取り自己決定につなげるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴は、ある程度の時間が決まっているが、その中でも本人のペースを尊重するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみの自己決定が出来る方は、衣類を選んでいただいている。出来ない方は、家族に話を聴いたり等して、職員が本人らしいのを考え選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き等は、出来る方が多くスタッフと一緒にいる。調理は、切る、剥くなど出来る方も居るので一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎月1回の体重測定、毎日の食 事・水分量記録にて、個別の状 態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア介助及び、声 かけを全利用者に行っている。 状態に応じて、かかりつけ歯科 医の往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	個別に確認出来る排泄チェック 表を設け、排泄パターンの把握 に努め、個人に合わせたトイレ 誘導、声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食物を提供した り、個々の水分出納状況を把握 し、必要に応じて足りない部分 は働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴曜日は、決まっているが本人のタイミングに合わせて時間帯、曜日を変えて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた入眠時間・環境などを心がけている。日中も居室で休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理表を作成し、職員がいつでも見れる場所に設置している。症状の変化時は母体病院に報告・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族・本人の話をもとに、役割を持っている。確認が困難な方は、職員で話合い、検討をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>年に数回の外出行事と、個別で希望に応じて散歩、外食、散髪など出かける機会を設けている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望される利用者に対しては、お金を所持していただき、それ以外の方は施設でお預かりしている。いつでも、使えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が電話を希望される際は、その都度、対応している。手紙を書かれた際は、投函するなど支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた、飾り物や作品を利用者と一緒に作成し共用の空間に掲示している。冷暖房、採光など快適に過ごせるよう配慮をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士で会話が生まれやすい座席配置や、独りで過ごしやすい空間を作り居場所の工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に自宅で使っていた愛用品を持ってきていただくよう、お願いをし、本人らしい部屋作りに努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下や風呂場には、手すりを設置し、個別にベッドサイドにも手すりを設置している。また、安全と自立に考慮した家具の配置に努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない